動機づけと英語力について

上垣宗明*

A Research of the Students' Motivation and their English Ability

Muneaki UEGAKI*

ABSTRACT

This paper focuses on the relation with students' English ability, their grammatical ability and their motivation for English and its learning. To survey their motivation, a questioannaire was conducted to 120 first grade students in July 2015. Concerning their English ability, I referred to the two term exams, midterm and term exams of the first term, 2015. To evaluate their grammatical ability, I made an original test consinsting of 30 questions. According to the results of two term tests, I divided them into three groups. With the statistic analysis, I analyzed their results. I found out the correlation of their English ability with their grammatical ability. Especially, the highest group had the strong correlation between them. But I could only find out the weak correlation of their English ablity with their motivation. So I could say that to arouse their English ability is more necessary to increase their grammatical ability than to increase their motivation for English and its learning.

Keywords : motivation, English ability, English grammatical ability

1. はじめに

平成 27 年 4 月に神戸市立工業高等専門学校（以下，神戸高専）に入学した 1 年生 3 クラスを対象に，英語や英語学習に対しての意識や動機づけ，英語の学力や英語の文法力についての調査を行った．

平成 23 年度に，新小学校指導要領[1]が施行され，5・6 年生で，英語の授業が必修となった．今回の調査対象の学生は，6 年生の時に新学習要領に移行しており，5 年生までは旧学習要領に基づいて授業が行われていた．指導要領移行期間の学生の英語や英語学習に対する動機づけを調査できるのは，現高校 1 年生の学年, つまり, 今回の調査対象となった学年だけである．この学年の学生を調査することは，今後，新学習要領で小学校の英語授業を受けた学生，そうでない学生，移行期間の学生についての英語力等を調査する際に貴重な資料になるといえる．

神戸高専は 5 年制で他の校種と比較しても修業年限が長く，英語に関する授業は 1 年生から 5 年生まで継続して実施されている．入学当初の学生の英語に対する学習動機をしっかりと把握しておくことは，今後，学生のニーズにあった効果的な英語教育を提供していくうえでは必要なことである．また，文法事項に関しても，中学校で学習した内容が定着しているかを確認しておくことは，授業を行っていく際に，注意すべき文法項目を指導する時の貴重な情報となる．

2. 調査について

分析対象となるデータは, 2 つの試験, 文法テスト, 質問紙の 3 つである．試験については，平成 27 年度前期中間試験と前期定期試験のそれぞれの素点，7 月中旬に実施した英語や英語学習に対する意識や動機づけに関する質問紙（Appendix 1），7 月中旬に実施した文法テスト（Appendix 2）の 3 つのデータを分析対象とする．

2.1 試験について

現在では, 英語力を測定するテストとして TOEIC テストが企業や教育機関などで一般的に認められている. 神戸高専専攻科入試においても, 2011 年度以降, 当日の英語の試験に代わり, TOEIC の取得点を 100 点満点に換算し, 合否の判定資料として用いている. 以前の著者の調査[2]で, 学校の試験と TOEIC や TOEIC Bridge のスコアの相

＊ 一般科 教授

関が高いことがわかった．本稿では，TOEIC スコアと相関が高い学校の試験を学生の英語力を判断する資料として利用する．

中間試験は平成 27 年 6 月 15 日月曜日の 1 時間目に実施された．3 クラスとも全員出席しており，120 名が受験した．定期試験は，平成 27 年 9 月 17 日木曜日の 1 時間目に実施され，中間試験同様に 120 名が受験した．試験時間は両試験とも 50 分である．両試験の結果を表 1 に示す．

表 1 中間試験と定期試験の結果

	n	m.s.	S.D.	max	min
中間試験	116	76.09	12.62	95	46
定期試験	116	76.22	12.58	97	41
平均	116	76.16	11.73	95.5	45.5

(n : サンプル　m.s. :平均値　S.D.:標準偏差
max:最高点　min : 最低点)

両試験において，平均点では僅か 0.13 点，定期試験の方が高かった．統計的に差があるのかを確認するために統計処理を行った．本調査の統計処理は，「エクセル統計 2008（SSRI：社会情報サービス株式会社）」を使用した．その結果，有意差は見られなかった($n = 116$, $t = 0.16$, $p = 0.43$). そのため，1 つの試験結果よりも 2 つの試験結果を分析対象とする方が客観性が高まるので，以降，中間試験と定期試験の平均点を分析対象とする．

2.2 文法テストについて

3 クラスとも夏季休業に入る前の英語の授業中に，英語文法に関する能力を測定するために，30 問からなる小テストを実施した．

クラス A　7 月 15 日（水）　11：25～11：45　40 名
クラス B　7 月 13 日（月）　14：00～14：20　39 名
クラス C　7 月 15 日（水）　13：30～13：50　39 名

クラス B，C で欠席者が各 1 名ずつ，合計 2 名おり，合計 118 名が受験した．

出題形式は以下の通りである．

例 1）　Which do you like good, tea or coffee ?
　　解）　×　good　→　better
　　2）　Who was late for school ?
　　解）　○　＿＿＿＿　→　＿＿＿＿＿

例のように，英文が記述してあり，その英文が文法的に適切か，不適切かを判断し，不適切な場合はその語句を適切なものに書き換える形式である．テストの点を 100 点に換算した．その概要は，平均 71.56，標準偏差 13.84，最高 96.7，最低 30 であった．

2.3 質問紙について

英語や英語学習に対しての動機づけや意識を調査するために，『外国語教育リサーチマニュアル』(3) を参考にした質問紙を著者が作成した．質問は 21 項目からなり，4 段階評価（1. 全然そう思わない，2. あまりそう思わない，3. だいたいそう思う，4. まったくそう思う）で回答を求めた．質問紙を配布し，「このアンケートは成績に全く関係ありません．正直に答えてください．」と教示した．実施要領は以下の通りである．

クラス A　7 月 22 日（水）11：15～11：25　40 名
クラス B　7 月 22 日（月）14：20～14：30　38 名
クラス C　7 月 15 日（水）13：20～13：30　39 名

クラス B と C で合計 3 名の欠席者がいた．調査対象となる試験，文法テスト，質問紙の全てを受けた学生は合計 116 名だったので，この 116 名を分析対象とした．

質問紙が同じ概念を測定しているのかを示す指標である内的一貫性についても注意を払った．内的一貫性を測定するためのクロンバック α 係数という値を用いた．ゾルタイは，「うまく作られた質問紙であれば，たとえ 10 項目程度しかない場合でも，内的一貫性による信頼度係数は 0.8 程度あります．」(4) と述べている．この指摘に沿うように，クロンバック α 係数が 0.8 に近づくように調整した．

まず，21 項目全てに対してクロンバック α 係数を求めた．その結果，0.703 と低かった．項目 6　英語を勉強するのは嫌だ（−0.38），8　高専では英語の勉強は必要ないと思う（−0.25），9　今後，英語よりも数学のほうが大切だと思う（−0.13），１７　本を読むのが嫌いだ（−0.15）が相関係数でマイナスの値を示していた．これらの質問内容については，１７　以外，英語や英語を勉強することについての動機付けを調査するうえで，逆数を示す項目である．１７　を含め，それぞれの値を 5−X（X は素点）で計算した．その結果，クロンバック α 係数は 0.82 となり，英語や英語学習への動機づけを測定する信頼度係数は充分に確保されていると思われる．

3. 調査対象のデータについて

調査対象のデータの概要については既に示したが，次は，試験の平均点をもとに上位群，中位群，下位群に分け，それぞれの群について試験，文法テスト，質問紙を分析し，検討を加える

3.1 各試験の詳細

より正確に分析するために各群の人数を 36 人に統一した．分析対象から省いた学生は，下位群の一番点数が悪い学生と中位群の点数の良い学生 7 名，合計 8 名である．各群の試験，文法テスト，質問紙の平均点(値)，標準偏差，最高点(値)，最低点(値)を表 2 に示す．

表 2 が示すように，文法テストも，質問紙の値も，上位群が一番高く，続いて中位群，下位群の順番と

表2 各群の概要

	上位群	中位群	下位群
サンプル数	36 名	36 名	36 名
試験平均	88.5	79.15	62.4
標準偏差	3.51	3.07	6.2
最高 / 最低	95.5 / 84	83.5 / 74	70 / 50.5
文法平均	79.72	71.57	64.07
標準偏差	9.70	11.78	15.31
最高 / 最低	96.7 / 60	90 / 47	86.7 / 30
質問紙平均	60.33	57.69	54.92
標準偏差	8.03	8.2	8.9
最高 / 最低	76 / 44	76 / 42	75 / 38

なっている. 試験の平均では, 上位群と中位群で 9.35, 中位群と下位群で 16.75, 上位群と下位群では 26.1 の差があった. 標準偏差では, 下位群の値が他の 2 群と比べるとかなり高く, 点数のばらつきが大きいことがわかる.

3.2 試験の結果の詳細

各群の平均点では差がみられるが, 統計的に有意差があるのかを多重比較検定 (Sceheffe 法) で分析した. その結果を表３に示す.

表３ 試験の分析結果

	平均	差	χ2 乗値	p 値	判定
上位群 中位群	88.5 79.2	9.35	23.79	.00	**
上位群 下位群	88.5 62.4	26.1	95.16	.00	**
中位群 下位群	79.2 62.4	16.8	23.79	.00	**

**：１%有意 *：5 %有意

各群において１ %水準の有意差が確認できる. 試験の平均点では各群で明らかに違いがみられた.

3.3 文法テストの結果の詳細

この３群で文法テストにおいて有意差が見られるのかを分析した. その結果を表４に示す.

表４ 文法テストの分析結果

	平均	差	χ2 乗値	p 値	判定
上位群 中位群	79.7 71.6	8.1	7.72	.02	*
上位群 下位群	79.7 64.1	15.6	20.99	.00	**
中位群 下位群	71.6 64.1	7.5	3.25	.19	

表４からわかるように, 文法テストでは, 上位群と下位群で１ %水準の明確な有意差があることがわかる. 上位群と中位群では, 5 %水準の有意差があったが, 中位群と下位群では有意差がなかった. １ %水準の強い有意差があった上位群と下位群では, 文法テストのどの問題の正解率に違いがあるのかを調べた. 両群において, 正解率で 20 %以上の違いがみられた問いは, ２(22 %), 7(31 %), 9(42 %), ２２(25 %), ２３(33 %), ２４(28 %), ２７(25 %), ２８(42 %), ３０(25 %) の 9 問であった.

3.3.1 特徴的な問題の分析

特徴的な結果と思われるこの 9 問について, 全体, 上位群, 中位群, 下位群の正解率を表５に示す.

表５ 正解率に差がある項目

問い	2	7	9	22	23	24	27	28	30
全体	18	29	33	27	35	78	78	72	71
上位	33	42	56	39	50	92	89	92	86
中位	14	39	31	31	39	75	81	81	58
下位	11	11	14	14	17	64	64	50	61

問い２と９は, “every” と “each” に関する知識を問う問題だが, 下位群では理解できている学生が少ないことがわかる. “every” は単数を示す指標であることを知らない学生が多く, 全ての群で正解率は低いが, 特に下位群の学生の理解不足が目立つ. “each” も “every” と同様に単数を示すが, 全ての群で “every” よりも正解率が高い. これは, 日本語による干渉もあると思われる. 問い７は, 状態を表し進行形にならない “know” についての問題である. 3 群共に正解率は高くないが下位群が他の 2 群と比べると特に低いことがわかる. ９は, 前置詞の目的語となる代名詞の格についての問題である. 上位群の学生が他群に比べて 20 %以上も正解率が高いのが特徴的である. ２３は, 英文の内容を理解し受動態か能動態かを判断する問題で比較的難しい問題と思われる. 上位群の正解率は 50 %と, 難しい問題にしては正解率が高いといえる. 英文の内容を理解して解答している. ２４に関しては, 三人称単数現在の “have” と “has” についてであるが, 簡単な問題にもかかわらず, 下位群の学生の正解率は 64 %で 2/3 程度の学生しか理解していなかった. 上位群については, 不正解率が８ %でそれでも３人の学生は間違えていた. ２７は, 受動態に関する問題だが, ２４とほぼ同様に, 2/3 の学生しか理解できていなかった. ２８は, 現在完了の文で使われる “for” と “since” の知識を問う問題だったが, 上位群は 92 %の正解率で

下位群は50％の正解率であった．現在完了に関する基本的な知識を問う問題にもかかわらず，下位群では半分の学生しか理解できていないことが明確になった．３０は，最上級を用いる際の冠詞“a”と“the”についての問題で，上位群と下位群では正解率に25％の違いが見られた．表には記載していないが，２９の比較級の問題は多くの学生が正解しており，3 群において違いが見られなかった．形容詞の比較級，最上級の問題だったが，学生にとっては，冠詞の問題として捉え，不正解者が下位群に多かったのだろう．

文法テスト全体を通して，試験で良い点数を取得する学生が試験とは全く関係のない出題範囲の文法テストでも良い点数を取っていることが明らかになった．文法項目ごとの各群での差はバラつきがあったが，“every”や“each”などの語句の知識が上位群の方が定着していた．進行形や受動態などの英語学習するうえでは非常に重要な事柄は下位群の学生も身に着けていた．しかし，２３のように，英文を見ただけでは受動態か能動態かの判断が難しい問題では，下位群の学生は正解率が他の群よりも低かった．上位群は英文の内容を理解し，正しい判断ができる学生が多いことがわかった．

3.4 質問紙の結果の詳細

次に質問紙について，3 群で有意差が認められるのかを分析した．その結果を表６に示す．

表６　質問紙の分析結果

	平均	差	χ2乗値	p 値	判定
上位群 中位群	60.3 57.7	2.6	1.8	.41	
上位群 下位群	60.3 54.9	5.4	7.73	.02	*
中位群 下位群	57.7 54.9	2.8	2.1	.35	

**：１％有意　*：５％有意

表６が示すように，上位群と下位群で５％水準の有意差が見られた．上位群と下位群ではどの項目に違いが見られるのかを確認するため，平均値に大きな差があるものについて検討する．

平均値で，上位群と下位群で 0.3 以上，上位群の方が高かった項目は７項目(１，２，３，４，６，９，１３)あり，この７項目について詳しく検討する．下位群の方が平均値が高い項目も数個(７，１４，１７，２０)あるがその差が 0.1 未満の項目が２つあり，比較的数値に差が見られる１７と２０の２つの項目についても検討する．

上位群の平均値が高い項目は，1 自分の英語が通じるとうれしい，2 外国人ともっと会話してみたい，3 英語を話せるようになりたい，4 英語は簡単だと思う，６ 英語を勉強するのは嫌いだ（逆転項目），９ 今後，英語よりも数学の方が大切だと思う（逆転項目），１３ 外国で暮らしてみたい，の７項目であった．下位群の方が平均値が高く差が大きかったのは，１７ 本を読むのは苦手だ（逆転項目），２０ e-mail を英語で書けるようになりたい，の２項目であった．

3.4.1 特徴的な項目の分析

特徴的な結果となった９項目について，全体，上位群，中位群，下位群の平均値を表７に示す．

表７　特徴的な質問項目（抜粋）

項目	1	2	3	4	6	9	13	17	20
全体	3.6	2.9	3.6	1.8	2.6	2.7	2.5	3.1	2.6
上位	3.8	3.1	3.8	2.1	3.0	3.1	2.7	2.9	2.6
中位	3.6	2.9	3.7	1.8	2.5	2.6	2.4	3.1	2.5
下位	3.5	2.7	3.4	1.6	2.4	2.6	2.4	3.1	2.8

数値の開きが一番大きい項目は６であり，この項目は逆転項目であるために，英語を勉強するのが嫌いではない，という問いになる．上位群の学生の傾向として，英語を勉強することが嫌いではないと思っていることがわかる．全体の平均値と比較しても 0.4 高いのは，上位群特有である．下位群は，あまり英語の勉強をすることが好きではない学生が多いこともわかる．

次に開きが大きい項目は９で，この項目も逆転項目である．上位群の学生は，数学よりも英語の方が今後大切になると感じている傾向が強い．下位群は平均値とあまり変わらないので，中位群の学生も下位群と同様に数学の方が大切だと感じている傾向が強い．

項目４は，全体の平均値も低いが，上位群は英語の勉強内容を理解できているので，英語の勉強をあまり難しいと感じていないが，下位群の学生は英語を簡単だとは感じていない傾向が表れている．英語の勉強が嫌ではない上位群の学生が勉強することで英語力や英語文法力が身につき，さらに勉強が嫌いではなくなるという好循環となっているのだろう．

項目１，２，３，から，英語を話せるようになりたいと強く思っている学生が上位群に多いことがわかる．特に，平均値が全項目を通して２番目に高かった１については，上位群 3.81，中位群 3.64，下位群 3.48 と各群に差があり上位群ほど英語が通じたときの喜びを強く感じており，下位群は上位群ほど喜びを感じていないことがわかる．上記の項目をまとめると，上位群の学生は英語が通じたときのうれしさを知っているので，さらに話せるようになるために英語を勉強すべきだと思っている．

項目１３は，他の項目の平均値の傾向とは異なって

いた．１７，２０以外の多くの項目は，上位群，中位群，下位群と平均値が低くなるが，この項目は，上位群 2.72，中位群と下位群は 2.42 と上位群のみが他群と比べて高い平均値である．質問内容は，海外で暮らしてみたいか，というものであった．このことから，上位群の学生は将来海外で暮らしてみたいと思っている学生が多いことがわかる．しかし，全ての群の平均値が 3 に達していないので，中位群と下位群の学生のほとんどが海外で暮らしたいと思っていないといえる．

上位群と下位群で 0.3 以上の差はなかったが，全項目で一番高い平均値を示したのは，５であった．全体の平均値 3.68, 上位群 3.83, 中位群 3.61, 下位群 3.58, という値を示していた．質問は，将来英語が必要と思うかを尋ねたものだが，全ての群で，英語の必要性を実感している．特に上位群の学生は強く感じており，そのために英語を頑張って勉強し，試験で良い点数を取得している．そのことを項目８が裏付けている．逆転項目である８は，高専では英語の勉強は必要であると思う，という内容である．全体の平均値が 3.56，上位群 3.69，中位群 3.53，下位群 3.5 であった．項目５と同じような傾向の平均値で，中位群，下位群に比べて，上位群がかなり高い値を示していることからも，上位群の学生は英語を勉強することの必要性を強く感じていることがわかる．

項目１７，２０は，上位群と下位群の平均値が逆になっている項目である．１７は, 本を読むのが苦手だ，であるが，逆転項目なので本を読むのが苦手ではないという内容の設問になる．英語学習とはあまり関係がない質問であるために，他の項目の平均値と異なる傾向を示していると考えられる．２０については, e-mail を英語で書けるようになりたい，という質問で，下位群が中位群や上位群よりも高い値を示している．表７には記載されていないが，項目２１英語の歌を聞くのが好きだ, も, 他の項目とは傾向が異なり, 上位群 3.08, 中位群 2.83，下位群 2.94，と中位群が一番低かった．項目２０と２１を合わせて検討すると中位群は一番英語を書いたり，聞いたりしたいと思っていない学生が多い．上位群においては，英語を書くことよりも聞くことに興味があり，下位群は，聞くことよりも書くことに興味を示している学生が多い．先述した項目１，２，３，を合わせて考察すると，上位群の学生は英語を話すことや聞くこと，つまり英語の言葉でのコミュニケーションに関心が高い．しかし，下位群は言葉でのコミュニケーションよりも文字でのコミュニケーションに関心が高いことがわかる．

3.5 試験，文法テスト，質問紙の相関について

試験では各群において有意差が認められた．文法テストでは，上位群と下位群で１%，上位群と中位群で５%の有意差があった．質問紙では，上位群と下位群にのみ５%の有意差があった．つまり，試験の点数は，質問紙の結果よりも文法テストの結果に強く影響を与えていた．

差ではなく，相関についても調査した．試験と文法テスト，試験と質問紙のどちらが相関が高いのかをスピアマンの順位相関係数を利用して分析した．その結果を表８に示す．

表８　相関係数について

	試験/文法	試験/質問紙	文法/質問紙
全体	0.477	0.251	0.145
上位	0.139	0.0034	0.0034
中位	0.039	0.029	0.0248
下位	0.489	−0.027	−0.005

表８から，学生全体の相関係数が各群に比べて高い値であることがわかる．その中でも，試験と文法テストの相関が際立って高い．各群では，対象となる人数は 36 名と全て統一したが，下位群は，試験と文法テストの相関が際立って高く，試験と質問紙，文法テスト質問紙の相関は際立って低く，マイナスの値を示していた．全体的には，試験と文法テストの相関が試験と質問紙，文法テストと質問紙よりも高い値を示している．試験との相関は，質問紙よりも文法テストの方が高いことが相関係数の値からわかる．

4. まとめ

中間試験と定期試験の平均点で，上位群，中位群，下位群の３群に分け，文法テストと英語や英語学習に対する動機づけや意識についての質問紙を利用した調査の結果を分析した．

質問紙の結果から，上位群と中位群，中位群と下位群では，有意差が認められなかったが，上位群と下位群では，５%水準の有意差が認められた．殆どの項目で，上位群の平均値が高かった．特に，差が大きかった項目は英語を勉強することに対する意識で，上位群の学生は，英語が理解できているから勉強をすることに対して苦痛を感じずに学習できていることがわかった．英語学習に対しての意識の違いが，試験で良い点数を取っている学生とそうでない学生とで異なっていた．次に，差が大きかった項目から，上位群は，今後，英語が必要だと強く感じており，書くことよりも英語を話したり，聞いたりできるようになりたいと思っている学生が多いことがわかった．下位群の学生は上位群の学生よりも，英語で e-mail を書けるようになりたいと思っている学生が多いことがわかった．

文法テストで高得点を取得する学生は，中間試験や定期試験でも高得点を取得する相関が強いことが明確になった．試験で高い点数を取るためには，文法項目をしっかりと定着させることが必要である．中学生時

代にしっかりと英語を勉強し，文法事項を身につけている学生は，神戸高専に入学しても，英語学習に対して苦痛を感じずに英語を学習し試験で良い点数を取っていた．文法の力をあまりつけていない学生は，英語学習に対してあまり好意的に感じずに学習しているために，試験で良い点数が取れていなかった．

5. 今後の課題

本調査で，学校での試験の点数は，動機づけよりも文法力との相関が高いことがわかった．今後は，文法力, 語彙力, 学習動機, 3年次に受験するTOEIC Bridge, 4年次に受験するTOEICなどの多くのデータを利用し，英語力に影響を与えているものを明確にし，英語力を高めるための指導方法を考えていきたい. また, 今後，４年間神戸高専に在籍し英語を勉強していくので，継続的に長期にわたって動機づけなどの変化の調査を行い，学生の英語力への影響を詳しく調べていく．

Appendix 1

1 自分の英語が通じるとうれしい
2 外国人ともっと会話してみたい
3 英語を話せるようになりたい
4 英語は簡単だと思う
5 将来、英語は大切だと思う
6 英語を勉強するのは嫌だ
7 文法よりも単語や熟語のほうが大切だと思う
8 高専では英語の勉強は必要ないと思う
9 今後、英語よりも数学のほうが大切だと思う
10 英語以外の外国語も勉強したい
11 世界の出来事に関心がある
12 外国の文化や習慣を勉強したい
13 外国で暮らしてみたい
14 将来、エンジアになりたい
15 英語を使う仕事に就きたい
16 理系より文系科目が得意だと思う
17 本を読むのは苦手だ
18 吹き替えなしで洋画が見たい
19 PCよりも英語が使えるようになりたい
20 e-mailを英語で書けるようになりたい
21 英語の歌を聞くのが好きだ

参考文献

(1) MEXT　新学習指導要領 第4章 外国語活動 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/gai.htm

(2) 上垣宗明 「TOEICスコアと中間・定期試験の点数について」, 神戸高専研究紀要, 第52号, pp.97-102, 2014.

(3) ハーバード・W・セリガー, イラーナ・ショハミー著, 土屋武久他訳:「外国語教育リサーチマニュアル」, 大修館書店, 2001.

(4) ゾルタイ・ドルニェイ著, 八島智子, 竹内理訳:「外国語教育学のための質問紙調査入門」, 関西大学出版部, 2006.

Appendix 2

1, Was the letter writing by him?
2, Every boys likes to watch this movie.
3, Tom and Ken is good friends.
4, They are play the guitar now.
5, These cakes were made yesterday.
6, My sisters was out when I came back.
7, Jane is knowing Tom’s father.
8, You bags are so big.
9, One of our opened the door.
10, Please teach he how to use this computer.
11, This is Kumi bag.
12, Tom looks happily.
13, I am interesting in English.
14, Jane got up early every morning.
15, Those is your pens.
16, He goes to school every day.
17, We eating apples now.
18, This is an big apple.
19, Are that woman Mrs. Smith or Mrs.Obama?
20, The boys are in that room yesterday.
21, Takeo watchs TV every day.
22, Each student study English very hard.
23, The student who won the contest was giving a gold medal.
24, Johnson have to help his mother.
25, Bill doesn't going to read the book.
26, Ken has a cat.　The cat is black.
27, French is speaking in this country.
28, She has lived in this city since two years.
29, Tommy is young than Ken.
30, A longest river in Japan is the Shinano..